

目標達成計画

作成日: 平成22年10月5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人全体の理念を基盤にしつつ、ホーム独自の理念を作りあげ、職員全体に浸透させるようにする。	法人全体の理念は掲げているが、もう少し噛み砕いた、わかりやすい表現で理念を形成し、職員に周知する。	「寄り添う介護」、「優しい介護」など標語調にした内容を掲げ、理念の周知を図る。	12ヶ月
2	3	災害時に入居者を安全に避難していただくためには職員のみでの対応では限界がある。	地域住民の具体的な支援が得られるようにする。	地元区長や消防団に施設の性質を説明、理解していただき、地域の防災計画等に盛り込んでいただくように努める。	12ヶ月
3	26	高齢化に伴い、入居者に変化等が見られ、現状と計画がかみ合わない状況がでてきている。	3ヶ月に1回の見直しと現状に即した介護計画を作成していく。	全員のアセスメントを統一した形で行うとともにモニタリングについてもしっかりと記録に残すように努める。	6ヶ月
4	33	入居者の重度化や終末期の対応に向けて、看取りの方針や意志確認書の作成が望まれる。	看取りの方針等作成すると共に、職員教育に努め、入居者・家族の安心と納得した最期を迎えられるように努める。	他施設の状況等を調査し、現状の体制で看取りが行えるかを検討し、指針を作成していく。	6ヶ月
5	35	災害時、夜勤者1名で9名の入居者を避難誘導を行うには限界がある。	年1回の避難誘導訓練は昼間想定であり、今後夜間想定での訓練を行う必要がある。	消防署や地元消防団等の協力を得ながら、夜間想定での避難訓練を行い、得られた課題を基に話し合い、より安全な避難誘導ができるように努める。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。